

## COVID-19 ワクチンの信頼獲得へ向けての諸戦略

著者：エミリー・K・ブランソン、アリソン・ブッテンハイム、  
サアド・オマル、サンドラ・クルーズ・クイン  
要約作成者：吉田隼大<sup>1</sup>

### はじめに

本文書は、米国科学アカデミーによる「COVID-19 ワクチンの信頼獲得へ向けての諸戦略」の要約です<sup>2</sup>。2021年2月現在、アメリカではCOVID-19のワクチン接種が継続中であり、より多くの人々へ接種を拡大することが課題となっています。本報告書は、接種拡大のため、一般の人々のワクチンに対する信頼を獲得することを目指した諸戦略についての、専門家による緊急の提言です。本稿を執筆した、社会の専門家による行動ネットワーク（Societal Experts Action Network, SEAN）は、米国科学アカデミーによって、COVID-19パンデミックにおいて持ち上がる政策問題への対応のために、社会科学や行動科学、経済学の専門家と政策決定者とを結びつけるために設立された組織です。

本報告書で示される指針は、特に現在ワクチン接種にためらいを覚えている人々への働きかけを対象としています。彼らがためらう理由は一つではなく、集団や共同体ごとに異なるため、それらを理解し、そのそれぞれに適した仕方に対話を試みる必要があります。また、その呼びかけの方法や内容は、COVID-19についての他の報道の文脈や、刻一刻と複雑に変化する状況に合わせて最適なものとなるように配慮されなくてはなりません。これらを前提としつつ本報告書で述べられる中心的な主張が、BOX 1 および BOX 2 に記された、COVID-19 ワクチンの信頼獲得のための「諸戦略」です(下記3頁)。また、これら諸戦略のそれぞれについての詳細な記述が6頁以降で展開されているので、適宜参照してください。

以下は本報告書の要約である。要約文中の特に重要な箇所は下線を引いて示した。

---

<sup>1</sup> 京都大学大学院文学研究科 倫理学専修 修士一回生。なお、要約の作成にあたっては、同文学部学生の大隈楽氏から助言をいただいた。

<sup>2</sup> National Academies of Sciences, Engineering, and Medicine 2021. *Strategies for Building Confidence in the COVID-19 Vaccines*. Washington, DC: The National Academies Press. <https://doi.org/10.17226/26068>.

## 概要

COVID-19 ワクチンへの一般の人々からの信頼を獲得するにあたっては、明快で透明性のある呼びかけを通じた一般の人々への働きかけと効果的な対話が重要である。本報告書では、一般の人々とのかかわり方を改善し、ワクチンに対する躊躇に取り組み、ワクチンへの信頼を獲得するために国家・州・地域レベルで実施され得る様々な働きかけと対話戦略が示される。

一般的に言って、人々が考慮する事項と必要な情報は地域ごとに広く異なるため、地域の共同体に必要な資源を支援し、当地の人々に働きかけて、連邦・州レベルからくる情報を補うようにすることが重要だ。地域的な考慮事項を特定し理解するために、共同体と強力に結びついて働きかけることは、誰からもたらされるどんなメッセージが人々に最も効果的なのかを明らかにするのに役立つ。更には、COVID-19 ワクチンに関して躊躇していたり、積極的でなかったり、信用していなかったり、あるいはその他の理由から接種を望まない人々に、必要な資源や情報、そして接種が彼らにとって正しい決断となるための支援を与えることが、きわめて大切になるだろう。本稿では、一般の人々に対する働きかけと共同体からの信用を獲得するための諸戦略 (BOX1) に加え、特に効果的に対話を図ってワクチンへの需要を確保し受容を促進するための諸戦略 (BOX 2) を強調する。これらの諸戦略は、効果的なリスクコミュニケーション<sup>3</sup>のための五つの諸原則に基づくものだ。

1. 待つな（すぐに取り組み）。
2. 信頼可能であれ。
3. 明快であれ。
4. 共感を示し、尊重せよ。
5. 不確実さを認め、人々の期待に対処せよ。

本稿はまた、どれくらいの人々がワクチン接種を望んでいるかについての現在のデータも示している。それらの要素は、彼らの理解力と彼らが住む社会の規範に影響されるものだ。これらのワクチンへの動機づけは、様々な実生活上の考慮と一緒にあって、COVID-19 ワクチンを接種するかしないかを決定する。ワクチン接種計画の初期段階におけるどんな種類の問題も、ワクチン接種への人々の動機づけとワクチンの信用度に影響しかねないため、ワクチンをどう分配・配分するか、そしてワクチン接種が行われる現場において患者がどのような経験をするかが、集団免疫を獲得する上で重要である。

---

<sup>3</sup> 社会を取り巻くリスクに関する正確な情報を、行政、専門家、企業、市民などのステークホルダー間で共有し、相互に意思疎通を図ること。

### BOX1

#### 一般の人々のワクチンへの不信と闘い信頼を獲得するよう地域共同体に働きかけるための六つの諸戦略

1. 共同体内の組織と提携関係を結べ
2. 当該共同体内にルーツをもつ、信用のある情報発信者の意見と視座を考慮し、かつ最も重視せよ
3. 複数のアクセス可能な媒体に働きかけよ
4. 人種間での公平を目標にした働きかけを始めよ、あるいは継続せよ
5. COVID-19 ワクチン接種の公有化を認め、促進せよ
6. ワクチン分配における不公平を判断し通知せよ

### BOX2

#### 対話を図ってワクチンへの需要を確保し受容を促進するための九つの諸戦略

1. それぞれの人々に寄り添い、全員を説得しようとするな
2. 誤った主張について言及しすぎるな
3. メッセージを具体的な受け手に合わせたものにせよ
4. メッセージを状況の変化に応じ変えよ
5. ワクチン接種により生じる悪い結果について、透明性のある仕方で迅速に応答せよ
6. メッセージの伝達を行う信用のある情報発信者を定めよ
7. 強固なワクチン反対派に注力するのではなく、ワクチン接種への支援を強調せよ
8. 一般の人々からの信用度の高いワクチン接種者を活用せよ
9. ワクチンの提供のあり方は、情報をも伝えるため、その細部に注意せよ

## 序論

COVID-19 ワクチンへの強固な需要を確保し受容を促進することは、集団免疫を獲得し、最も脆弱な人口集団を保護し、社会的・経済的な生活を再開するために決定的に重要である。この目標を達成するためには、乗り越えるべき二つの課題がある。まず、ワクチン接種を希望している人々は、できるだけスムーズに簡単に接種できなくてはならない。次に、ワクチン接種に躊躇していたり、積極的でなかったり、信用していなかったり、あるいはその他の仕方で接種を望まない人々には資源や情報、そして接種が彼らにとって正しい決断となるために必要な支援が必要である。この二つのそれぞれに異なる戦略が必要になるが、本稿は二つ目の課題について指針を提供する。本稿では、COVID-19 ワクチンへの一般の人々からの信用を獲得し、ワクチン接種率を上げるべく政策決定者に支援を行うことが意図されている。本稿では国家レベルでのワクチン市場戦略の概要を示すものではないが、本稿で示されている諸原則や戦略は、そうした方面の取り組みにとっても重要なものとなるだろう。

行動科学や心理学、社会科学の知見からは、集団の動機づけ（意志や意図、躊躇など）は、彼らがどう考え何を感じているか（受け取られるリスク、心配、信用、信頼、安全への懸念など）と社会的な過程（ヘルスケア提供者からの勧告、社会規範、ジェンダー規範、平等、情報の処理と共有など）に影響されることが分かっている。また、人類学の知見によると、個人の動機づけはさらに、身体や病気、適切な種類のヘルスケアといったものの文化的理解の影響を受ける。また、初期段階の接種計画が始まれば、平等な配分や分配、そしてサービスの実施具合といったものに関し彼らが何を理解し何を信じるかにも影響される。それゆえ、動機づけは、様々な実生活上の考慮（ワクチンが利用可能かどうか、接種にかかる費用、サービスの質など）と一緒に、ワクチンの接種の有無を決定するのである。

加えて、これらの信頼獲得へ向けた活動が行われる文脈もまた大切である。一般の人々は既に COVID-19 ワクチンとワクチン接種の試みについての情報を、州政府などの機関や地域の報道機関、様々な専門家といった複数の情報源から得ている。そうした情報は相互に食い違うことがあり得るし、そのせいでワクチンへの信頼度や公衆衛生機関への信用が損なわれてしまうことになりかねない。そのため、ワクチン問題についての公共の議論の概形に働きかける試みは、直接的に接種するよう説得するよびかけと同じくらい大切であり得る。

さらに、COVID-19 ワクチンの分配が継続するにつれてパンデミックを取り巻く状況は変化し続けるだろうから、ワクチンが広範に使用可能になるにつれてその都度適切な呼びかけを続けることができるように、人々の信念と態度についての継続的な監視を行うべきだ。また本稿に挙げた原則が実際に運用される仕方には、地域的な文脈によっても大きな幅があるだろう。そのため、人々への対話の試みを最善のものとするために、彼らへの呼びかけの効果を継続的に監視して、どの働きかけが最も必要なのかを知ることが大切だ。

## COVID-19 ワクチンへの躊躇を理解する

COVID-19 ワクチン接種に対しては、完全に受け入れている人から強硬に反対している人まで様々であるが、信頼獲得のための取り組みにもっとも積極的に反応する可能性が高いのは、その中間にいる人々である。そのため、接種数を効果的に増大させるためには、強硬に反対しているというよりもむしろ接種に躊躇している人々に働きかけるのが良い。強硬な反対者に注力することは、問題を大きくしてしまう可能性がある。

2020年12月に米国で最初のCOVID-19 ワクチンが承認されてから、COVID-19 ワクチンへの一般の人々の信頼度は、同年初頭にまだ存在していなかったワクチンに対して報告されていた値よりも上昇している（詳細は以下BOX3を参照）。ワクチンに躊躇しているグループは一枚岩ではなく、その躊躇の理由も固定的ではなく様々だ。現在、その理由の多くは主に、しばらく静観して、他の人の反応や、安全性と有効性にかかわる技術的な問題を確認したいという欲求に基づいている。さらにその欲求は、医学や公衆衛生、政府への不信と結びついているケースもある。この「静観したい」という欲求は過去のH1N1 ワクチンの際にも見られた。このワクチンはFDAの標準の承認プロセスを経て承認されたにもかかわらず、緊急使用許可制度において許可された場合のような懸念が見られたのだ。緊急使用許可により承認されているCOVID-19 ワクチンの場合、それを段階的に展開するにあたり、次のような形で人々の躊躇に応答することができるかもしれない。すなわち、公的機関が、接種計画が進行するにつれて、さらなるワクチンが承認される際に（それまで蓄積された）ワクチンの安全性と有効性にかかわるデータを開示しアクセス可能にするというものだ。

ワクチンに躊躇する人々の懸念には沢山種類がある一方で、彼らは地理的・文化的に共通する傾向がある。特に民族・人種的マイノリティーの集団は、今回のパンデミックにおいて不平等に害を被ってきたこともあり、有色人種共同体におけるワクチンへの不信が問題になっている。COVID-19において、黒人やヒスパニック、アメリカ先住民やアラスカ先住民の共同体に属する人々の死亡率は白人の三倍以上だった。これらのグループはまた、ウイルスに関係した重篤な影響を受けるリスクを高めるような環境にいる可能性も高い。

有色人種共同体におけるワクチンへの不信は、今現在米国における公衆衛生や医学的、社会的サービスの分野に蔓延する構造的不平等にも起因している。更にその背景には、歴史的に受けてきたヘルスケアの差別や医療研究における搾取、不当な人体実験などがある。この不信を克服することは容易ではないが、パンデミックの状況下で人種・民族的不平等を強調しすぎることは、状況を悪化させるだけになる可能性もある。

### BOX3

#### カイザー家財団<sup>4</sup>による COVID-19 ワクチン監視計画、2021 年 1 月からの要点抜粋

COVID-19 ワクチン接種に対する人々の態度は変化し続けている。この BOX では、本稿出版時点で参照可能な最新のデータを報告する。現在のデータは、SEAN の調査アーカイブ (以下の URL) で参照可能である。

[https://covid19.parc.us.com/client/index.html?mc\\_cid=a543a1dc66&mc\\_eid=656554d0a6#/](https://covid19.parc.us.com/client/index.html?mc_cid=a543a1dc66&mc_eid=656554d0a6#/)

カイザー家財団のワクチン監視計画で 1 月 11 日から 18 日の間に行われた調査では、回答者の中で、41%の人が、「できるだけ早く」ワクチンを接種するだろうと回答し、39%が「静観する」だろうと回答している (6%が既に接種したと回答)。12 月の監視記録と比較すると「できるだけ早く」接種するだろうと回答した大人の割合は上昇し、そこには黒人とヒスパニックも含まれている。しかし、黒人とヒスパニック及び 18~29 歳の人々は「静観する」グループに多く含まれており、その一方で、「民主党支持者」及び 65 歳以上の人々、白人、ヘルスケア従事者、家庭に慢性的疾患を抱えた人々がいる人は「既に接種した」及び「できるだけ早く」のグループに多く含まれている。

回答者の 13%は COVID-19 ワクチン接種を「絶対にしない」と回答し、7%が「要求された場合にのみ」接種すると回答した。米国で集団免疫を獲得するために必要だと予測されるワクチン接種率が高い (以前は 60~70%と見積もられていたが現在は 90%近いとされる) ことを踏まえるとこれらの数字は問題である。「共和党支持者」の 33%が、ワクチン接種を「絶対にしない」あるいは「要求された場合にのみ」すると回答している。郊外居住者の 29%、黒人回答者の 21%、エッセンシャルワーカーの 28%および「支持する政党なし」の 21%も同様である。

ワクチン接種を「絶対にしない」と回答した人々の中で、その考慮事項は「ワクチンが言われているほど安全ではない可能性」が最も大きく (81%)、次いで「ワクチンへの未知の長期的な効果」(77%)、「重篤な副作用の可能性」(73%)、「ワクチンが言われているほど効果的ではない可能性 (66%)」であった。未接種の黒人・ヒスパニックの回答者は、白人回答者に比べこれら四項目の全てでより高い割合を記録している。

---

<sup>4</sup> Kaiser Family Foundation (KFF). 米国サンフランシスコに本部を置く非営利団体で、ヘルスケア関連事項の政策分析や情報分析、一般への情報提供などの活動を行っている。  
URL: <https://www.kff.org/>

## COVID-19 ワクチンへの不信と闘い、信頼を獲得するための一般の人々への働きかけの諸戦略

ワクチンへの不信を克服し信頼を獲得するためには、一般の人々への働きかけが不可欠である。この節では、その諸戦略を六つにまとめて紹介する。

### 1. 共同体内の組織と提携関係を結べ

当該共同体に強固な関係を築いている組織と提携することは極めて大切である。それら組織は対象となる人々に近く、それゆえどうすれば情報を効果的に届けることができるかを知っているし、最も大事なこととして、それら組織には効果的なスポークスパーソンたり得る信頼された指導者がいる。それら組織と信頼できる提携関係を結ぶには、双方向の対話を迅速に行き、信頼を獲得し、問題解決のためのビジョンの共有や意思決定プロセスへの市民の参加、地域的なニーズに応じた仕方での情報共有などを実現することが大切だ。提携関係を結ぶことにより、地域の行政機関は既存の関係や社会資本、資源をワクチンの信頼獲得のために活用することができる。提携先となり得る組織には、宗教的なネットワークや共同体内における医療従事者のプログラム、および地域の行動者団体などが挙げられるだろう。

### 2. 当該共同体内にルーツをもつ、信用のある情報発信者の意見と視座を考慮し、かつ最も重視せよ

また、対話に基づいた介入戦略によって、共同体の指導者や代表者を動員し取り組みに参加させるといったことができる場合がある。加えて、ソーシャルメディアや広告戦略を駆使して、たとえば“whatsyourwhy”（あなたの『なぜ』はなんですか）や“blackwhys-matter”（黒人の『なぜ』も重要だ）などのハッシュタグによって、共同体の成員間で「何故接種を選ぶのか」の理由を共有することも効果を生むだろう。

最も大切なことは、共同体の信用ある成員と長期的な関係を取り結ぶことである。もしこのような関係が成立していない場合、地域の保健部門は、彼らの気にしている事柄に耳を傾け、彼らにワクチンと接種への平等なアクセスについての適切な情報が与えられるように支援することから始めるべきだ。

### 3. 複数のアクセス可能な媒体に働きかけよ

共同体への結びつきと働きかけは、脆弱な人口集団にもよく届くような複数の媒体で起こさなければならないだろう。それらには、公の意見交流の場に参加できないような人々（働いていたり、遠方に住んでいたり、服役中であつたりするなど）や通信環境に制限がある人、英語以外の言語を喋っている人、読み書きできない人が含まれる。それぞれ個別の集団に対しどの媒体が最も適切かを判断することがとても大切だ。州知事や地域の行政長官

は、たとえば市役所での会合や共同体の特別なイベント、宗教共同体の会合などを利用することができるだろう。

#### 4. 人種間での公平を目標にした働きかけを始めよ、あるいは継続せよ

特に有色人種共同体では、人々への働きかけは現に存在している不平等を認めることから始まらなくてはならない。地域の保健部門は、構造的な人種差別がそれらの共同体にどのように不利益を与えてきたかを理解すること、そして当部門が全ての共同体に対する平等な健康を目指しどのように取り組んでいるかを説明することで、当該共同体における支持者を増やすことができるかもしれない。

ワクチンそれ自体だけについて説明することは、健康とは純粹に個人の行動のみの問題だという誤った考えを強化してしまい、住居や仕事、ヘルスケアへのアクセスなどといったより大規模な構造的要素を見えなくしてしまう恐れがある。行政機関にとって大切なのは、これらの大規模な要素における不平等があることを認め、COVID-19 ワクチンをこれら共同体における平等促進のための手段として位置づけ、さらにパンデミック収束後も同種の試みが継続すると保証することだ。ワクチン接種を含む公衆衛生政策は、平等へのより深いコミットメントを反映するものでなくてはならない。

#### 5. COVID-19 ワクチン接種の公有化を認め、促進せよ

有色人種共同体を含む一部の人口集団においてワクチンへの信用度は低い。このような状況下で、私的なヘルスケア提供者にワクチンをいきわたらせるのではなく、ワクチン接種を公共の事業とすることは、ワクチンの信頼獲得に大きく寄与し得る。また、公共のシステムには当該共同体の構成員が含まれていることから、このような公有化の取り組みは、そうした公共の統治機構そのものへの信頼の獲得とアクセス改善につながるという利点もある。加えて、接種そのものを公共の財として強調することの利点もある。「私の接種が共同体全体を助けるし、私は私の同胞を気にかけているので、接種します」という動機の人を増やせるのだ。

#### 6. ワクチン分配における不平等を判断し通知せよ

信頼獲得のためには、ワクチンの配分状況における不平等をリアルタイムで判断し、それが見つかった場合にはすぐに知らせることが大切だ。政策決定者はこの種の情報を監視し、共同体の指導者と協力して不平等が発生する度に解決策を実行しなければならないだろう。



## COVID-19 ワクチンの信頼獲得に向けた効果的な対話 効果的な対話のための諸原則

本節では、効果的な対話のための五つの原則を強調する。これは CDC（疾病予防管理センター）から出されたガイダンスをもとにしたものだ。

### 待つな（すぐに取り組み）

直ちに対話を始めよ。人々の態度というものはいったん形成されるとなかなか変わらないものだ。故に、COVID-19 ワクチン接種計画は、対話戦略を可及的速やかに発展させなくてはならない。殆どの人々は過去の経験から発達させた物語に基づいて新しい概念についての判断を下すので、対話のアプローチを工夫することで人々の精神に影響を与えて COVID-19 ワクチンが既に彼らにとって親しいものであるかのように認識させることができるだろう。

### 信頼可能であれ

一貫性と透明性を持て。特に新しいデータが参照可能になる際には透明性は大切だ。どんなワクチンにも副作用と使用に伴うリスクがあり、それらは一般の人々に適切な方法で明快に伝えられる必要がある。同様に、ワクチンに関してまだ分かっていないこともそのように認められなくてはならない。

### 明快であれ

一般の人にアクセス可能な、専門用語を含まないメッセージを送れ。専門用語を避け、対象となる人々のリテラシーのレベルに合わせた呼びかけをすることが大切だ。専門用語を避けるとは単にメッセージから難しい化学や生物学の用語を取り除くだけでなく、一見単純に思える用語に見落とされていた問題がないかを精査することも指す。

### 共感を示し、尊重せよ

人々の不安を否定するようなことをするな。人々に、自分の言葉がちゃんと届いていると感じられるようにすることが大切だ。そのように感じられなければ、彼らはこちらの話も聞いてくれないだろう。効果的な対話に必要なのは、人々の不安について聞き、彼らの不安を述べ直してやり、新しい情報を共感とともに与えてやることだ。

### 不確実さを認め、人々の期待に上手く対処せよ

不確実さを認めよ。パンデミック下では、既知の事柄は絶えず変化し、種々の計画もそれに従って変化する。ワクチンの展開が継続中の現在でさえ、ワクチンの利用可能性や配分状況、優先される集団の変化を、政府や科学者たちの無能や失敗の証拠として読み取る

人々がいるのだ。このような不確実性に備えておくことが、一般の人々にそのような変化をより受け入れやすくすることにつながる。

未来を保証しすぎるな。 ワクチンの一般展開にはかなりの時間と労力が必要になるだろう。受け取り順序についての現実的な予測を正直に共有することで人々の期待にうまく対処することにつながり得る。逆に言えば、配分プロセスがどれだけ素早く進行するかについて保証しすぎることは、人々の信頼を損ねる結果になりかねない。他には、ワクチン接種の割り当てに登録する方法について明確なガイダンスを行うことも、合理的な期待がかけられていると保証する上で大切だ。ワクチン接種計画についての情報を積極的かつ広範に共有することで、人々の期待に対処し苛立ちを減らすこと、そしてプロセス全体の公正な履行を促進することができるだろう。

## COVID-19 ワクチンの需要を促進するための対話に関する諸戦略

ワクチンへの躊躇に対し単一の解決策はなく、複数の複雑なアプローチが重要になる。本節では COVID-19 ワクチンの信頼獲得に向けた対話戦略のための九つの最善の実践をまとめる。

### 1. それぞれの人々に寄り添い、全員を説得しようとするな

必要な情報と資源は、ワクチン接種のようなある特定の自己防衛的行為をするか否か考えている人（なぜそれをするべきか？）と、既にその行為をすると決めている人（それをするためにはどうすればいいか？）とで異なる。それゆえ、もう接種の意思を固めていて実行に際し必要な情報を欲している人々と、躊躇してはいるが更なる情報を欲している人々とは、異なるメッセージを送ることが大切だ。さらに、今直ちに接種を望まない人々の殆どは、接種に躊躇していたり懐疑的であったりするに過ぎないことを踏まえれば、接種に強硬に反対している人を説得しようとするのは賢いとは言えない。

接種に関する研究では、躊躇している人たちに働きかけるにあたって、共感（empathy）が重要であると強調されている。すなわち、「あなたがワクチンに疑問を抱いているだろうことを理解していますし、私はそれらにできるだけ答えるためにここにいるのです」と言った言葉遣いを用いることが大切である。

### 2. 誤った主張について言及しすぎるな

科学的証拠に合致しない情報を修正することは多くの場合難しいし、（修正する目的で）誤った主張や情報を繰り返すことはその情報をむしろ広め強化してしまう危険すらあるが、それでも時折はそれらに取り組みなければいけないことがあるだろう。そうした場合には、聞き手に予め注意を喚起する（「今からお話する主張はミスリーディングですが……」）ことや、誤報以上に事実を強調することが大切だ。

米国の極端な報道の現状から、人々はパンデミックについて全く異なる情報を受け取っているし、同時に情報の拡散はボトムアップであるよりもトップダウンになってしまっている。接種に懐疑的な姿勢を取る人々を「他者」として扱ったり「あれらの人々」という態度を向けたりするのではなく、共感を促進するアプローチをとった方が良い。

### 3. メッセージを具体的な受け手に合わせたものにせよ

メッセージとは受け手によって異なる受け取られ方をするものだし、COVID-19 ワクチンの場合、対象とする人々の考慮する事項や動機付け、誰を信頼しているかを踏まえて発信しなくてはならない。もし人々が与えられた情報は彼らのニーズに適っていないと感じると、彼らはこちらのメッセージを聞いてくれなくなるだろう。

それゆえ、良い対話戦略には、年齢やジェンダー、既婚/未婚、教育レベル、移民/難民、

健康のための行動や規範、人種やエスニシティといった様々な要素に応じ下位集団を認識し、それぞれに適したメッセージを送ることが必要だ。

また、一般には拡大できないけれども個人レベルに合わせた呼びかけということも考えられなくてはならない。たとえば、「何故 COVID-19 ワクチンは DNA 配列を変化させないのか」の説明を集団全体に対し不用意に行うと、前述のように「COVID-19 ワクチンが DNA 配列を変える」という誤報の方を逆に広めてしまい良い結果にならないことが考えられるが、それでも特定の個人にはそう説明した方が良いことはありうる。特定の状況では、全体に合わせた呼びかけよりも個人に絞った対話を重視すべきことがあるのだ。

#### 4. メッセージを状況の変化に応じ変えよ

接種計画が進行するにつれ、人々の決定に影響するものは個人の経験やメディアの報道を反映しつつ変化してゆくの、接種を促すメッセージの内容もそれに合わせ変化させてゆく必要がある。そのためには、ワクチンへの信頼に影響している要素の継続的な監視と、そこから得られた情報をフィードバックする仕組みが大切になるだろう。優先して伝えるべき事柄とメッセージに適切な形式、信用ある情報発信者、適切な発信頻度等を特定するための迅速な調査手法と、その調査を支援する資金投入が必要だ。

#### 5. ワクチン接種により生じる悪い結果について、透明性のある仕方で迅速に応答せよ

ワクチンが軽い副作用を引き起こすことはよくあるが、重篤な副作用の割合は極めて少ない。しかしそのような稀な事例がメディアで強調されすぎたり広範に拡散されたりすることがある。そのような事例については透明性をもって時宜を得た形で対話を図り、何が既知で何が未知の事柄なのか、何が為されるべきかを人々が理解する助けとなることが大切だ。加えて、ワクチン接種拡大の妨げになるような副作用を特定するために接種後の監視を行うことも重要である。このようにすることで、ワクチンの安全面での不安を緩和し、計画の妨げになる事例を、計画を促進する方向へ転換することができるだろう。

#### 6. メッセージの伝達を行う信用のある情報発信者を定めよ

新しい COVID-19 ワクチンについてのメッセージは全ての人々にとって新しいものなので、メッセージを伝達する発信者や発信機関への信用度は増すだろう。それぞれ別の集団ごとに信用された情報発信者や好まれる媒体がある。

#### 7. 強固なワクチン反対派に注力するのではなく、ワクチン接種への支援を強調せよ

ワクチン接種を「可視化」することで、COVID-19 ワクチンの受け入れを社会的規範のようにつなげるだろう。たとえば、選挙で投票を終えた人が「私は投票しました」というステッカーを受け取るように、接種現場で「私は接種しました」ステッカーを配ったり、接種したことを家族や友達に伝えとかソーシャルメディアへの投稿を呼び掛けたり

することによって、接種率が増えるにつれて接種への働きかけを増やすような良い循環を生む仕組みを作ることができる。他には、地域内に保管されているワクチン量のリアルタイムのデータを閲覧できるようにしたり、地域内の接種需要のエビデンスを示したりすることもできるだろう。

#### **8. 一般の人々からの信用度の高いワクチン支持者を活用せよ**

思想的指導者や共同体のリーダー、人気のある要人などに接種することで、彼らをワクチン促進のためのメッセージの発信者として利用し、一般の人々の接種を促すことができるかもしれない。この作戦の例には、NBA の人気選手や黒人共同体における宗教指導者を使ったものの他、理容師や美容師（彼らが共同体内部の誤報を訂正し社会規範を形作るのに役立つだろうという判断から）を利用したものもある。

#### **9. ワクチンの提供のあり方は、情報をも伝えるため、その細部に注意せよ**

登録や接種の際のユーザーエクスペリエンスが好ましくない場合、それは接種計画にとって障害になる。オンラインの登録ポータルが落ちたという通知を受け取ったり、接種現場が汚かったり、待ち時間が長かったりしたら、ワクチン自体にも問題があると思われるだろう。

## 結語

COVID-19 ワクチンへの信頼と信用を獲得すべく本稿で議論されている問題に取り組むにあたっては、一般の人々への働きかけと呼びかけが極めて大切である。人々の考慮する事柄や必要な情報が地域ごとに広く異なっていることを考えれば、局所的な共同体のそれぞれに必要な支援を与えることが大切だ。そうすることによって、共同体にはその成員に働きかけたり、明確かつ明快な情報を与えたりすることができる。ワクチンへの躊躇を受け入れに変えるためには、閲覧可能で、一貫して、透明性のある対話の試みが大切である。また、共同体と強力に結びつき、考慮されている事柄を特定し理解することで、誰からもたらされるどんなメッセージが最も効果的になるかを明らかにすることができる。

ワクチン接種計画の上では、あらゆる人（雇用者やヘルスケア提供者、宗教指導者、公衆衛生の担当者などなど）に果たすべき役割がある。接種計画が進行するにつれ、連邦や州レベルでの支援を受けたアプローチと、局所的なレベルでの資源や専門分野、連携関係への資金投入が重要になるだろう。国家や州、地域レベルにおける様々な諸戦略には、一般の人々とのかかわり方を変化させ、ワクチンへの躊躇に働きかけ、信頼を獲得し、究極的には COVID-19 ワクチン接種計画の成功を保証することが求められるのだ。